



社有林において、社員向けの森林散策イベントを実施

社有林を活用して、森林散策や薪づくり塾など社員向けのイベントを開催。今後、他社の新人研修の受け入れも行っていきたいと考えており、プログラムを開発中。

導入の経緯と決め手

「木づかい運動」を知り、CSRの観点で、新十津川エリアの間伐材を紙の原料として使用していたところ、森林組合からの打診があったことをきっかけに、2013年に43haの社有林を取得した。森林をできる限り有効利用して、様々な人に体験してもらいたいと考えており、アクセスが良いことや林道があることは社有林購入においてポイントとなった。

取組内容とその効果

<実施地域：北海道新十津川村>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大前は年間100名が社有林の散策に参加していたが、現在は年間30名程度。NPOに指導をしてもらう薪づくり塾等を開催。今後、他社の新人研修の受け入れも行っていきたいと考えており、生態系調査の委託先企業と連携してプログラム開発中。

森を使うことの良さを、常に社内に向けて発信していたので、社内では木材利用に対する意識が高まり、様々な機会で「木を使う」ということを考えるようになった。



従業員の声

会社が森を持つことで、身近に森や木と接することができるのありがたい。木や鳥などのことを教えてもらえるのも嬉しい。

役割分担と参加促進に向けた取組

社内のグリーン企画室が主導して開催内容を決定。従業員や地域の方の中には、森林所有者も含まれるため、参加を促すためには、プログラムの新規性が必要。

■プログラム構築：

企業内で検討している

■導入形態：

休日自由参加の行事（日帰り）

■対象者：

全従業員が対象

■費用負担：

企業が全額負担

目的

- 地域貢献・社会貢献
- 福利厚生

結果（企業の声）

- 社員の森や木材利用への関心が高まった